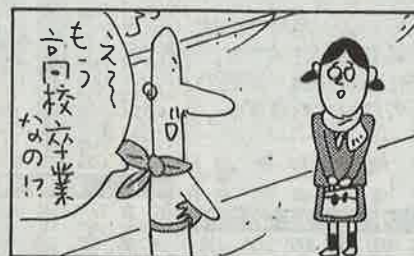


地球防衛家の ととと



室内に高1女子遺体

石川事情知る？男子学生、死亡

10日午後9時50分ごろ、石川県能登町宇加塚の木造2階建て住宅で血を流して死亡している女性が見つかった。県警によると、女性は県立能登高校1年の池下未沙さん(16)＝能登町＝で、刃物のようなものによる傷が複数あったという。県警は殺人事件とみて捜査している。

10日午後6時半ごろ、L・INで「迎えに来てほしい」と家族に連絡。家族が待ち合わせ先のバス停に行くと、池下さんはおらず、カバンや携帯電話が残されていた。このため、家族が同日夜に県警に連絡した。

子大学生が軽乗用車にはねられ、近くに運転していたとみられる車が止められていた。この車の関係先を県警が調べたところ、事故現場から東に約20分離れた山間部にある能登町宇加塚の木造2階建て住宅が浮上。室内を調べた警察官が遺体を見つけた。

能登道は自動車専用道路で、男子大学生は当時、道路上にいたという。男子大学生は約16時間後に病院で死亡が確認された。県警は、死亡した男子大学生が池下さんの死亡の経緯を知っていた可能性があるとみて、調べを進めている。



実家から植え替えたモチノキの下に立つ新妻篤さん(左端)一家＝11日午前、福島県いわき市、関田航撮影

福島県いわき市久之浜町の新妻篤さん(43)の一家5人は、家の庭に立つモチノキを囲んだ。樹齢100年を越す高さ3メートルの幹には焦げ跡が薄く残る。小学5年生の次女しずくさん(11)と3年生の長男篤君(9)を見ながら、モチノキに語りかけた。

「お袋が守ってくれた2人の命は、元気に伸び伸びと育っているよ」
久之浜の集落は6月の津波に襲われ、41人が命を落とした。篤さんは母親の光子さん(当時67)を失った。火災も起きて焼け野原となる中、実家の位置を示すように庭のモチノキは津波に流されず、ぼつりと立っていた。枝の半分は焼けなくなっていた。

残ったモチノキ 母に重ね

津波の直前まで、しずくさんと篤君は光子さんと一緒に暮らしていた。光子さんは料理人になった。店を開こうと思ったが、光子さんは「自

家は祖父の代まで漁師。光子さんが上手に魚をさばく姿に憧れ、篤さんは料理人になった。店を開こうと思ったが、光子さんは「自



復興願う 震災後に新たに造られた町営墓地で、墓参りをする畑中豊さん(中央)。家族は無事だったが津波で自宅を流された。「6年経っても復興は難しい。町はトラックしか走っていない」＝11日午前8時27分、福島県浪江町、杉本康弘撮影

立つ再びふるちよひで

被災自治体で、職員不足が慢性化している。県外からの応援職員が約1割減る。宮城、岩手、福島、福島の3県で計310人が不足する見込みだ。派遣元の自治体の人手不足が影響している。

今年度、宮城県では14市町で正職員以外に1509人の人手を必要としたが、昨年4月時点の充足率は84%。福島県の21市町村では427人に對して87%、岩手県の9市町村は734人に對して91%だった。

浩・宮城県知事」という。

新聞広告に込めた思い ACジャパン広告学生賞

大学生や専門学校生らによる公共広告の優秀作を決める「第13回ACジャパン広告学生賞」(朝日新聞社など後援)の表彰式が10日、東京都内であった。今回初めて設けられた「新聞広告部門」では、応募した11校の168作品から、京都造形芸術大学3年の三枝瑞季さん(21)の作品がグランプリに選ばれた。

「グランプリ」野良猫クレン
準グランプリ「変わらないこと」
「いずれもACジャパン提供」